

南河内普及だより



松原市、藤井寺市、羽曳野市、富田林市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村



あけましておめでとうございます!! 本年もよろしくお願いいたします!!



いちごのクリスマス出荷を目指して! ~紙ポットを用いたいちご育苗試験について~

南河内農の普及課では、南河内地域におけるいちご産地の発展を目的に、新規就農者の育成および南河内いちごの安定生産のサポートをしています。

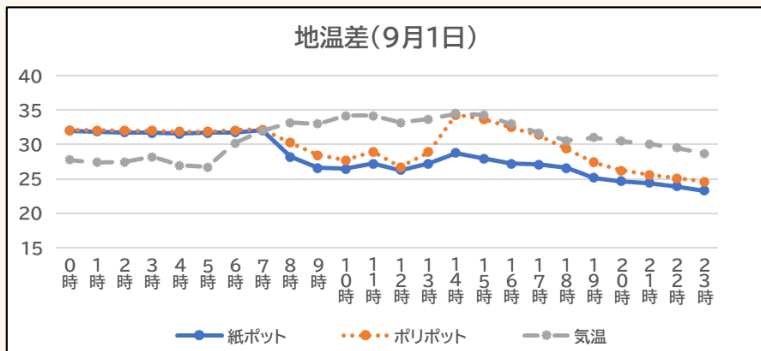
近年は、夏期の高温および残暑の長期化により、いちごの花芽分化が遅れる傾向にあります。そのため昨年度は12月の出荷量が伸び悩み、クリスマス需要に十分応えられない状況が見られました。そこで、花芽分化の促進と12月からの計画的な出荷を目的に、紙ポットを用いた育苗試験を実施しました。

試験の結果、紙ポットは慣行のポリポットと比較して、地温が最大で約5℃低く推移しました。その影響により、紙ポットでは11月下旬から果実の着色が始まったのに対し、ポリポットでは12月中旬からの着色となり、収穫開始時期も早まりました。一方、紙ポットの導入にあたっては、取り扱い時にポットが破損しやすい点や、かん水量・施肥量の調整が必要となる点に留意する必要があります。今後は、資材コストや作業性も含めた検討も行います。

このような取組みにより、クリスマス期の安定出荷といちご生産者の経営安定に向けた技術支援をこれからも継続していきます。

【各ポット内の地温と気温のグラフ】

【12月のいちごの様子】



「大阪産(もん)デジタルスタンプラリー ~南河内いちじく巡り~」を開催しました!

大阪府はいちじくの生産量が全国3位であり、南河内地域は府内最大のいちじく産地です。消費地に近い利点を活かし、販売直前まで熟させた甘味がとても強い南河内産いちじくは8月から9月にかけて旬を迎えます。消費地の近くで作られる南河内産いちじくは、朝採れのいちばんおいしいタイミングで出荷されるため、完熟の甘みと香りの強さを味わうことができます。

大阪府では、府内各地の大阪産(もん)の魅力を感じてもらうため、大阪・関西万博の開催期間である令和7年4月から10月にかけて、産地の直売所や飲食店等を周遊するデジタルスタンプラリーを開催しました。南河内地域では、令和7年8月28日~10月13日にかけて、南河内産いちじくを題材にデジタルスタンプラリーを実施しました。

合計33か所を巡るスタンプラリーには、延べ500人を超える方が参加されました。参加者からは、「美味しいいちじくが買えて良かった」、「知らなかったお店を知ることが出来た」などのお声をいただきました。

詳細HPは
二次元コードから→



【リーフレット】↑



事務所HP



バックナンバー

令和8年1月

南河内農と緑の総合事務所

農の普及課 発行

思いっきり！！南河内 果樹栽培情報

南果連だより



南河内フルーツ

松原市、藤井寺市、羽曳野市、富田林市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村

徹底！！病害虫防除（かき、ぶどう、かんきつ類）

～コナカイガラムシ類の生態と防除について～

○生態

- ・年間におおむね3回程度、世代交代を繰り返します。
 - ・第2世代以降は発生時期や個体数にばらつきが生じやすく、防除適期の判断が難しくなります。
 - ・1～2齢幼虫はあまり口ウ物質に覆われていないため、他の発育段階より薬剤が付着しやすく防除適期となります。
- ※寄生する作物・樹種により、発生条件や発生時期は異なります。

○防除のポイント

- ・越冬世代幼虫の新梢への移動時期、第1世代幼虫のふ化ピーク期、越冬時の防除が特に重要です。
- ・1齢幼虫期は口ウ物質が未発達なため、薬剤防除の最適時期となります。
- ・幅広い殺虫効果のある剤（合成ピレスロイド剤など）を多用すると天敵昆虫が減少し、結果としてコナカイガラムシ類の多発を招くおそれがあります。

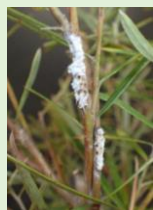
～今話題の虫たち～

○チュウゴクアミガサハゴロモ

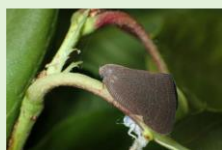
- ・R7.4月に府内での農業被害が初確認。要注意農業害虫

○ミカンナガタマムシ

- ・R7.11月にカンキツ園での農業被害が多く確認。
- ・成虫の最盛期（防除適期）は6～7月。



【産卵された様子】



【成虫】

↑詳細は二次元コードから



【成虫】



【食痕】

↑詳細は二次元コードから



見極めよう！！健康なみかんの木を育てる剪定方法

かんきつ類では、果実をつけた結果枝から出た枝は翌年には着果せず、その次の年に着果します。このため、剪定の際に結果枝を剪定しすぎないように注意しましょう。このように、前年に着果しなかった枝を「発育枝」といいます。特に、かきやかんきつ類では発育枝の先端部から出る枝が翌年実をつける結果枝となるため、新梢の先端部分の切返し剪定を多くすると開花数が減る原因となります。

これらの性質を鑑みて、発育枝が多い樹は切返し剪定を多くし、開花数を抑制します。一方で、発育枝が少ない樹は基本的に剪定を控えます。このように、樹の状態に応じた剪定を行うことで、年ごとの開花数の格差を小さくし、毎年安定した果実の収穫が期待できるようになります。

南河内地域では、2025年度のかんきつ類は収穫量が少ない裏年傾向にあります。そのため、春の剪定時は発育枝が多い状況です。着果量が多いと予想されるので切返し剪定を多くしつつ、不要な枝や徒長枝などの間引きもしましょう。（右図参照）

発育枝が少ない場合は樹冠部への日当たり及び風通しの向上を図る間引き以外は無剪定とし、夏の発育枝が多くなった頃に剪定するようにしましょう。

【不要な枝の見分け方】



大阪府 南河内農と緑の総合事務所 農の普及課

〒584-0031 富田林市寿町2-6-1 南河内府民センタービル内

TEL0721(25)1131(代表) FAX0721(25)0425

メール: minamikawachinotomidori-g04@sbox.pref.osaka.lg.jp

令和8年1月発行 第212号



事務所HP



バックナンバー